

保育雑誌に掲載される年間指導計画の現状と課題 — 「表現」領域を中心に —

田中 敏明*¹・石川 ますみ*²

*¹九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

*²豊岡短期大学通信教育部 兵庫県豊岡市戸牧160番地 (〒668-8580)

(2017年10月25日受付 2017年12月4日受理)

要 旨

本研究は、保育雑誌に掲載される幼稚園・保育所の年間指導計画のなかの表現領域を中心にねらい及び内容の分布状況を示し、それに基づいて指導計画の問題点と課題を明らかにするものである。4種類の保育雑誌それぞれに記述されているねらいと内容を、幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらいと内容に照らしてどれに当てはまるかを検討し、雑誌別、年齢別、期別に集計した。さらに、記述されているねらいや内容が活動として記述されているか、それとも育みたい幼児の姿として記述されているかによって分類した。育みたい幼児の姿として記述されている場合には、知識・技術・思考力・判断力・表現力に関するものと心情・意欲・態度に関するものに区分した。その結果、ねらいは、幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらい (2) 「感じたことの表現」に集中し、ねらい (1) 「豊かな感性」と (3) 「様々な表現」はほとんどないこと、内容は (4) 「感じたことの様々な表現」、(5) 「音楽表現」(6) 「造形表現」に集中するなど特定のねらいと内容に集中すること、内容のほとんどは活動として書かれており、育みたい幼児の姿として書かれていないこと、知識・技術・思考力・判断力・表現力に関するねらいはほとんどないことが明らかになった。改訂される教育要領では、心情・意欲・態度だけでなく能力を育てること、表現領域では感性や感動の心を重点的に育てることが求められているが、現在のところ、ほとんどの保育雑誌の年間指導計画はこのような条件を満たしていない。来年度に向けて早急な見直しが求められる。

キーワード：保育雑誌 年間指導計画 ねらいと内容の分析 問題点と課題

1. 研究の背景と目的

年間指導計画は、幼稚園、保育所における教育・保育の基本理念や教育目標を示した教育課程（保育所は保育課程、以下教育課程と記述する）に基づいて作成される年間を見通した指導計画である。教育は計画的に行われるべきものであり、子ども一人一人を確かに育てる教育は確かな教育課程と指導計画から生まれる。幼稚園教育要領でも、「それぞれの幼稚園の教育課程に基づき、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿っ

た柔軟な指導を行う」ことを求めている。このことから、幼稚園、保育所、認定こども園は、確かな年間指導計画が備えるべき条件を満たした教育課程と年間指導計画を作成し、計画に沿って日々の保育を展開していかなければならない。田中（2014）は、年間指導計画が備えるべき条件として、(1) 子どもの姿、ねらいの設定、指導内容の設定、環境構成、活動内容の順で作成される。(2) 幼児期に育っておかなければならない大切なものが、ねらいとしてもれなく選択されている。(3) ねらい、指導内容、活動内容の違いが理解され、区別して記載されている。(4) ねらいと指導内容は領域別に表示されている。(5) ねらいの達成にふさわしい内容である。(6) 内容は幼児の発達に沿っており、具体的で、連続性と発展性がある。(7) ねらいと内容が対応している。(8) ねらいと内容は、保育期間の中でしっかり達成されるものである。(9) 日々の保育のすべてが計画に示されている。(10) ねらいや内容は領域間、領域内のバランスが取れ、大きな偏りが無い。という10項目を提示している。田中、金丸、永淵（2012）が、この条件に基づいて保育雑誌に掲載された年間指導計画を分析したところ、これらの条件はほとんど満たされておらず、とくに言葉の領域と表現の領域はねらいの記載がほとんどなく内容の偏りも大きいなど多くの問題点が指摘された。永淵、矢野、田中（2013）は問題点の多かった2つの領域のうち言語領域について詳細に分析し、同様の結果を得ている。

2018年4月からは、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育指針が同時改訂される。この改定は、2016年12月の中央教育審議会答申を受けて、幼稚園から高等学校まで一貫した方針のもとに改訂されるものである。この答申では、今の子どもの学力や行動、体力などの現状と子どもたちが迎えるこれまで経験したことのない予測不可能な未来社会から、教育目標や内容、方法の大きな変革を求めている。育てるべき資質・能力として、①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」という3つの柱を設定し、幼稚園等でもその基礎を育てるというものである。また、中央教育審議会幼児教育部会も、この趣旨を受けて、10項目の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」を示している。この答申を受けて、幼稚園教育要領でも、上記の3つの資質を一体的に育み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮した指導を行うことを求めている。これまでの幼稚園教育要領や保育所保育指針では、幼児期に育てる資質を「心情」、「意欲」、「態度」に限定して示しており、幼稚園教育要領や保育所保育指針に、知識、技能、思考力や能力という言葉が用いられるのは初めてのことである。

このことから、これから作成される教育課程や指導計画も、これまで述べた趣旨に沿って、ねらいや内容の大幅な見直しを行う必要がある。そこで本研究は、田中、金丸、永淵（2012）の研究で多くの問題点が指摘された2つの領域のうち表現領域を対象に分析する。上述の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目のうち「豊かな感性と表現」は表現領域が該当する。幼稚園教育要領では短くまとめて示しているが、中央教育審議会幼児教育部会の答申では「豊かな感性と表現」は次のような内容として示されている。

- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。
- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、思いを膨らませ、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。
- ・遊びや生活の中で感じたことや考えたことなどを音や動きなどで楽しんだり、思いのままにかいたり、つくったり、演じたりなどして表現するようになり、友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくようになる。
- ・自分の素朴な表現が先生や他の幼児に受け止められる経験を積み重ねながら、動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、表現する意欲が高まるようになる。

現行の年間指導計画のねらい及び内容の分布状況や記述の内容を分析し、不十分な点や問題点を明らかにして、これからあるべき年間指導計画に近づけるための課題を提示する。

2. 方法

1. 分析の対象

S社のY誌（幼稚園と保育園）、S社のP誌（幼稚園と保育園）、C社のP誌（幼稚園と保育園）、H社のH誌（幼稚園保育所）4誌の2017年4月号付録として掲載されている年間指導計画のうち、3歳児、4歳児、5歳児を対象にした。このうちC社のP誌、S社のY誌、S社のP誌は特定の幼稚園または保育所が作成した年間指導計画で、幼稚園と保育所は別々に掲載されている。H社のH誌は、数園の園長を中心とする作成グループによって作成されたものであり、幼稚園、保育所に対応するものとして一つにまとめている。したがって、4誌合計7つの年間指導計画が分析の対象となる。

2. 分析の方法

年間指導計画のねらい及び内容として記載されている事項を、2018年4月に施行される幼稚園教育要領、保育所保育指針の「表現」領域の3項目のねらいと8項目の内容のどれに当てはまるかを検討し、ねらいと内容ごとにその数を年齢別、期別に集計する。その際、内容については、それぞれの項目が単に活動として記述されているか、それとも育みたい幼児の

姿として記述されているか、育みたい幼児の姿として記述されている場合には、知識・技術・思考力・判断力・表現力に関するものと心情・意欲・態度に関するものに分類する。また、ねらいと内容が対応して示されているもの、ねらいだけ、あるいは内容だけが示されているものの数を集計する。

幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されているねらいと内容は次の通りである。

ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ

内容

- (1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

3. 結果と考察

今回分析した4社合計7つの年間指導計画は、いずれも1年をいくつかの期に分けてねらいや内容等を示している。

S社のY誌(幼稚園)：3歳4期、4歳5期、5歳4期

S社のY誌(保育園)：3歳4期、4歳4期、5歳4期

S社のP誌(幼稚園)：3歳5期、4歳4期、5歳5期

S社のP誌(保育園)：3歳4期、4歳4期、5歳4期

C社のP誌(幼稚園)：3歳4期、4歳4期、5歳6期

C社のP誌(保育園)：3歳4期、4歳4期、5歳4期

H社のH誌(幼稚園保育所)：3歳児4期、4・5歳児5期

年間を4期に分けて表示する例が多いが、出版社によってまちまちであり、同じ出版社でも幼稚園用と保育所用で異なるケースがある。S社のY誌幼稚園用では4歳だけが期の数が

多く、逆にS社のP誌幼稚園用では4歳だけが期の数が少なくなっているが、その根拠は不明である。期の意味を再認識し、統一された基準を用意する必要がある。

表1. 保育雑誌別のねらいおよび内容の合計

		S社Y誌(幼)			S社Y誌(保)			C社P誌(幼)			C社P誌(保)		
		3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳
ねらい	(1)												
	(2)												
	(3)												
ねらい計		0/15	0/15	0/12	0/18	0/13	0/12	0/18	0/14	0/15	0/8	0/12	0/15
内容	(1)												
	(2)												
	(3)												
	(4)			2		2	1						2
	(5)	1	1			2	2						
	(6)	1		1	4	2	3		3			2	
	(7)			2	3	1	2	1				3	
	(8)			1	2		1			1		1	
内容計		2/34	1/32	6/35	9/54	7/41	9/43	1/18	3/18	1/18	0/15	6/30	2/23
		S社P誌(幼)			S社P誌(保)			H社H誌(幼保)			合計		
		3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳			
ねらい	(1)							1		1	2		
	(2)							1	3	2	6		
	(3)		1								1		
ねらい合計		0/13	1/17	0/10	0/10	0/11	0/11	2/19	3/21	3/15	9/305		
内容	(1)				1		1	1	1		4		
	(2)										0		
	(3)						1		1		2		
	(4)		1	1		1	1	3	3	4	21		
	(5)						1				7		
	(6)	3	1		2			4	2	8	36		
	(7)	1	2		1		2	3	6	1	28		
	(8)				1			2		1	10		
内容合計		4/39	4/22	1/23	5/16	1/16	6/19	13/66	13/85	14/106	108/755		

表2. ねらいと内容の対応

S社Y誌(幼)	S社Y誌(保)	C社P誌(幼)	C社P誌(保)	S社P誌(幼)	S社P誌(保)	H社H誌(幼保)	合計
0/9	0/25	0/5	0/8	1/9	0/12	7/40	8/108

A/B Aはねらいに対応している内容の数 Bは内容の総数

表1は、7種類の年間指導計画のねらい欄および内容欄に記載されているねらいと内容のうち表現領域に該当すると思われるねらいと内容を抽出し、その一つ一つを、ねらいについては幼稚園教育要領のねらい(1)からねらい(3)のうちのどのねらいに該当するか、内容については幼稚園教育要領の内容(1)から内容(8)のうちのどの内容に該当するかを評定し、あてはまる項目の数を7種類の年間指導計画ごとに示したものである。なお、表1中でA/Bと示したものは、Aは領域表現のねらいまたは内容の数を、Bはそれぞれの年間指導計画における全てのねらいまたは内容の数を示している。

表1からわかるように、H社H誌を除くと、S社P誌にねらいが一つある以外はS社Y誌(幼)、C社P誌、S社P誌の保育所用にはねらいが全く記載されていない。これらの年間指導計画にはC社P誌保育園用の3歳児を除くと、数の多少はともかくとして内容が記載されている。したがって、これらの年間指導計画ではねらいがないまま内容だけが示されているわけである。幼稚園教育要領では、内容とは「ねらいを達成するために指導する事項」と定義されている。この定義によると、ねらいのない内容は本来ありえないはずである。ねらいが示されないまま内容だけが記載されるケースが多い結果として、ほとんどの内容はねらいと対応していない。表2からわかるように、S社Y誌とC社P誌は幼稚園用、保育所用ともにねらいと内容が全く対応していない。ねらいが比較的多く記載されているH社H誌でも、40項目の内容のうちねらいと対応しているのは7項目に過ぎない。その結果、7誌合計108項目中ねらいと対応しているのはわずか8項目である。

5領域のなかの表現領域に関するねらいの占める比率は7誌を通して低い。H社H誌でも、5領域合計55項目のねらいのうち表現領域のねらいは8項目14.5%である。ねらいが全くないS社Y誌、C社P誌があることから、7誌合計では305項目中9項目、3.0%にとどまっている。

各領域のねらいがバランスよく掲載されていれば20%前後になるはずであり、このことから表現領域のねらいの少なさがわかる。

掲載されているねらいを幼稚園教育要領の3つのねらいと対応させると、「(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ」が2項目、「(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」が6項目、「(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」が1項目である。

「感性や感動を育む」や「様々な表現を楽しむ」ねらいが少ない。表現領域は、単に表現するための領域ではなく、まず感性や感動の心を育み、それを多様な方法で表現することを目的とした領域である。ただ単に歌う、楽器で音を出す、絵を描く、作る、劇遊びをするではなく、それによって何を育もうとするのか、そのことを十分理解した表現活動でなくてはならない。

内容を見てみよう。掲載されている内容は7誌合計で108項目である。5領域全体の内容

は755項目であるから、表現領域の占める割合は14.3%となる。ねらいの占める割合3%と比べると20%には届かないものの比較的他領域とのバランスが取れている。幼稚園教育要領の内容(1)から(8)との対応では、最も多いのが「(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」に該当する36項目であり、「(7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする」28項目、「(4)感じたこと、考えたことなどを音や動きで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」21項目がこれに続く。(6)と(7)だけで全体の50%を超える。ただ、H社のH誌を除くと、(6)または(7)が記載されていない年齢がある。C社のP誌(幼稚園)の5歳、保育園の3歳と5歳、S社のP誌(幼稚園)の5歳、S社のP誌(保育園)の4歳には両方が記載されていない。どの幼稚園や保育所でも歌は毎日のように歌われ、絵を描いたり作ったりの活動頻度も高いものと思われ、年間を通して一度も歌わない、描かない、作らないことはあり得ない。このことから、年間計画に記載のないまま活動が行われていることは明らかである。「(1)生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ」、「(2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」、「(3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう」は7誌全体を通して非常に少なく「(2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」に該当する内容はS社Y誌とC社P誌、S社P誌(幼稚園用)の年間指導計画には全く記載されていない。ねらいと同様に「感性や感動を育む」ことに関係する内容に乏しいことがわかる。

2018年4月に施行される幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育指針では、育てるべき資質・能力として、①「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」、②「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」という3つの柱を設定し、幼稚園等でもその基礎を育てることを求めている。今回分析の対象とした7誌の年間指導計画ではこの3つの資質・能力はどのような形で記載されているだろうか。

表3は3つの柱に関連する内容の掲載状況を示したものである。内容は活動を示すものではなくねらいを達成するために指導すべき事項であり、幼児の育ちの姿として記載されなければならない。全体的にみると、全108項目の内容のうち約半数は「身近な素材で好きなものを作る」など活動として示されている。活動に「楽しむ」をつけた記述も多い。これらはすべて活動として分類した。C社P誌の保育所用は記載項目のすべてが活動である。幼児の育ちの姿として示されている内容の約半数は知識・技術・思考力・判断力・表現力に関する内容であり、残りは心情・意欲・態度に関する内容である。現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針は心情・意欲・態度にかかわるねらいと内容を示していることから、心情・意欲・

態度に関する内容が多いことを予想したが予想外の結果である。なお、知識・技術・思考力・判断力・表現力に分類したもののほとんどは、「工夫する」、「感じ取る」、「イメージをふくらませる」であり、知識・技能（知る、わかる、できる）にかかわるものはH社H誌のねらい「思ったことや考えたことを表現し、いろいろな素材や用具の扱いを知る」とS社P誌保育所用3歳児の「用具の使い方を知る」以外は全く記載されていない。

表3. 3つの柱に関連した内容の掲載

	S社Y誌 (幼)	S社Y誌 (保)	C社P誌 (幼)	C社P誌 (保)	S社P誌 (幼)	S社P誌 (保)	H社H誌 (幼保)	合計
全内容数	9	25	5	8	9	12	40	108
知・思	2	5	1	0	3	8	8	27
心・意・態	2	7	0	0	3	2	10	24
活動	5	13	4	8	3	2	22	57

知・思=知識・技術・思考力・判断力・表現力に関する内容

心・意・態=心情・意欲・態度に関する内容

活動=単なる活動の記述

田中(2014)の提示した年間指導計画が備えるべき10の条件から、分析の対象にした年間指導計画を見てみよう。

(1) 子どもの姿、ねらいの設定、指導内容の設定、環境構成、活動内容の順で作成される。

すべての年間指導計画が子どもの姿、ねらいの設定、指導内容の設定、環境構成の順で構成されている。ただし、この順で作成されたかどうかは不明である。

(2) 幼児期に育てておかなければならない大切なものが、ねらいとしてもれなく選択されている。

ほとんどの年間指導計画にねらいそのものが記載されていない。内容においても、表現の基本としての感性や感動を育てる内容が非常に少ない。表現領域は「歌ったり踊ったり、描いたり作ったりする領域」という理解にとどまっているのではないだろうか。

(3) ねらい、指導内容、活動内容の違いが理解され、区別して記載されている。

ねらいと内容が区別して示されているものの、書かれている中身を見ると両者の区別ができていないように思われる。たとえば、内容として記載されている「音楽に親しみ、歌ったり踊ったりすることを楽しむ(S社Y誌)」、「思い思いに描いたり、作ったりすることを楽しむ(H社H誌)」、「感じたことや考えたことを自分なりの方法で表現する楽しさを味わう(S社Y誌)」などは内容ではなくねらいに該当する。内容とは、ねらいを達成するため指導する事項であり、ねらいを達成するための具体的な一步一步である。

(4) ねらいと指導内容は領域別に表示されている。

全ての年間指導計画において、ねらいは領域別ではなく一括して示されている。S社Y誌

は内容を領域別に記載しておりH社H誌もそれに準じた記載である。

(5) ねらいの達成にふさわしい内容である。

H社H誌以外の年間指導計画にはねらいがほとんど記載されておらず、評価以前の状態である。H社H誌には8つのねらいがあるがそのうち6つは該当する内容がない。対応しているものとして、「思ったことや考えたことを表現し、いろいろな素材や用具の扱いを知る」というねらいに対する「身近にあるいろいろな素材や用具に親しみ、描いたり、作ったりすることを楽しむ」、「自分たちで遊びの場を作ったり、見たこと、感じたことを様々な方法で表現したりすることを楽しむ」というねらいに対する「いろいろな材料を自分のイメージに合わせて見立て、工夫して使う」の2つである。一応ふさわしい内容と言えるが、もう少し具体的な内容でありたい。

(6) 内容は幼児の発達に沿っており、具体的で、連続性と発展性がある。

内容の多くは具体性に乏しく、その年齢の発達段階に沿った内容になっていないため、連続性と発見性が感じられない。

(7) ねらいと内容が対応している。

前述のように、H社H誌以外の年間指導計画にはねらいが記載されておらず、H社H誌には8つのねらいがあるがそのうち6つは該当する内容がない。このことから、ねらいと内容はほとんど対応していないといえることができる。

(8) ねらいと内容は、保育期間の中でしっかり達成されるものである。

期ごとに示されているねらいは3～6個であり、一つの期に達成するねらいとしては少なすぎるのではないだろうか。内容については、具体的な活動や予定時間が記載されていないため判断できない。

(9) 日々の保育のすべてが計画に示されている。

「歌を歌う」や「絵を描く」は幼稚園、保育所の代表的活動であり、幼児はほとんど毎日のように歌を歌っているものと思われる。絵も、それぞれの期で1度は書いているのではないだろうか。それにもかかわらず、S社Y誌幼稚園用、C社P誌の幼稚園用と保育所用、S社P誌の幼稚園用と保育所用には「歌を歌う」や「絵を描く」内容が全く記載されていない年齢がある。H社H誌は、すべての年齢に「歌を歌う」と「絵を描く」が記載されているものの、期によっては記載がない。このことからわかるように、年間指導計画には、日々行われる活動の一部しか記載されていない。多くの活動は、計画にないまま行われていることになる。

(10) ねらいや内容は領域間、領域内のバランスが取れ、大きな偏りがない。

すでに述べたように、表現領域のねらいと内容、とくにねらいは他の領域に比べて非常に少ない。「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」というねらいや、「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ」、「生

活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」、「様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう」という内容にかかわる記載も少なく、ねらいや内容の偏りが大きい。

以上の分析結果から、保育雑誌に掲載される年間指導計画は、表現領域を見る限り、年間指導計画が備えるべき条件をほとんど充たしておらず、多くの問題点と改善すべき点がある。このままでは、幼児をしっかりと成長させる日々の保育につながる計画とはいえない。今回分析の対象とした年間指導計画は、いずれも日本を代表する保育雑誌に掲載されているものであり、多くの保育者や学生が参考にしている。年間指導計画のあるべき姿や2018年4月から施行される幼稚園教育要領、保育指針の趣旨を十分に理解したうえで、根本的な見直しを行う必要がある。

引用文献

- 文部科学省 幼稚園教育要領 文部科学省告示 2017
- 田中敏明 幼稚園・保育所 指導計画作成と実践のためのねらいと内容集 北大路書房 2014
- 田中敏明、金丸智美、永渕美香子 保育雑誌に掲載される年間指導計画モデルの問題点Ⅱ—問題点を改善したモデル提示 福岡教育大学教育実践センター教育実践研究 第20号 P155-161 2012
- 永渕美香子、矢野洋子、田中敏明 領域「言葉」年間指導計画の現状と課題 九州女子大学 紀要第49巻1号 P127-138 2013
- 中央教育審議会 次期学習指導要領に向けた答申 概要 2016
- 中央教育審議会幼児教育部会 幼児教育部会における審議のとりまとめ資料2 2016
- 月間保育とカリキュラム編集委員 指導計画の基本的な考え方と年の計画 月間保育とカリキュラム2017年4月号特別付録 ひかりのくに 2017
- はくさん幼稚園、ハイランド白山幼稚園 幼稚園保育園こども園保育カリキュラム ポット 4月号別冊付録 チャイルド本社 2017
- 指導計画のヒント PriPri4月号別冊付録 世界文化社 2017
- 烏山杉の子保育園、名古屋市立猪高幼稚園、金沢保育園、中央区立京橋朝海幼稚園、興道北部保育園、福島めばえ幼稚園 2017年版指導計画 新幼児と保育 小学館 2017

Current situation and issues of annual guidance plan published in childcare magazines

Toshiaki TANAKA^{*1}, Masumi ISHIKAWA^{*2}

^{*1}Department of Childhood Care and Education, Kyushu Woman's Junior College
1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

^{*2}Department of Childhood Care and Education, Toyooka Junior College
160 Tomaki, Toyooka-shi, 668-8580

Abstract

This research aims mainly on the field of expression in the annual guidance plan of kindergarten and nursery school published in childcare magazine and shows the distribution situation of the aims and contents, and clarifies problems and problems of the annual guidance based on it is there. Consider which aims a contents described in each of four kinds of childcare magazines apply to the kindergarten education procedure and nursery school nursery guideline. This is tabulated by magazine, by age by period. The aim and contents are classified according to whether it is written as activity, or as appearance of an infant wanting to grow up. In the case where it is described as the figure of an infant wanting to grow up, it is divided into those concerning knowledge, skills, thinking activity, judgement, expressiveness and feeling, motivation, attitude. As a result, the aims focuses on the objectives of kindergarten education procedure and nursery school nursery guideline. (2)" expression of feeling, and there are few aims for (1)" rich sensibility" (3)" various expressions" . The contents focuses on (4)" various expressions of feeling" (5)" music expression" (6) representation expression". It is clear it focuses on specific aims and contents. Most of the contents are written as activities. There is almost no aims about what is not written as the form of an infant that you want to nurture, knowledge, skills, thinking ability, judgement, expressiveness. In the revised education procedure it is required to cultivate not only emotion, motivation and attitude, but also to emphasize the mind of sensibility and emotion in the Expression area. At the moment, the annual guidance plan for any childcare magazine Does not satisfy these conditions. For the next fiscal year, urgent review is required.

Keyword : Childcare magazine Annual guidance plan Analysis of aims and contents
sis